

試験科目・実技課題

AO入試

指定校推薦入試

一般公募推薦入試

選抜入試

試験科目・実技課題

AO入試

器楽コース

試験科目・実技課題

AO入試

ピアノ (鍵盤楽器)	ピアノ (1) 下記の練習曲より任意の1曲 C.Czerny 『50番練習曲』Op.740 Cramer=Büllow 『60の練習曲』 M.Clementi 『グラドス・アド・ハ・パルナスム』(C.Tausig 編) M.Moszkowski 『15の練習曲』 F.Chopin 『練習曲 作品10』または『練習曲 作品25』 (2) W.A.Mozart もしくは L.van Beethoven の任意の『ソナタ』の第1楽章または終楽章 あるいは、F.Schubert、F.Mendelssohn、F.Chopin、R.Schumann、J.Brahms のピアノ作品より任意の1曲 オルガン J.S.Bachのオルガン作品より任意の1曲。ただし、コラール作品 (BWV599-BWV771) は除く。 ※ピアノで演奏する場合 J.S.Bach 『平均律クラヴィーア曲集第1巻』より下記のうち2曲。演奏する曲は当日指定する。 BWV847, BWV851, BWV854, BWV856, BWV861, BWV866 【注意】 ①オルガンまたはピアノどちらの楽器を使用するか、AO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に明記すること。 ②入学後、練習用パイプ・オルガンを各自確保すること。
	チェンバロ J.S.Bach 『平均律クラヴィーア曲集第1巻』より下記のうち2曲。 BWV847, BWV851, BWV854, BWV856, BWV861, BWV866 【注意】 ①演奏する曲は、予備診断時に指定する。 ②ピアノで予備診断を受けることもできる。チェンバロまたはピアノどちらの楽器を使用するか、AO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に明記すること。 ③入学後、練習用チェンバロを各自確保すること。
	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ギター、ハープ 自由曲(1曲) (練習曲でもよい)。伴奏なし。 ただし、ヴァイオリンとチェロの志願者は、これに加えて任意の3オクターヴの長調および平行短調を演奏すること。 ・ヴァイオリン 音階：テンポの指定なし。スラーは、2拍または4拍でかけること (音階参考譜例 P.42)。 ・チェロ 音階：テンポ、スラーの指定なし (音階参考譜例 P.42)。 【注意】 下記2種の楽器を志願する者に限り、それぞれ括弧内にあげる楽器で予備診断を受けることもできる。 その場合は、AO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。 ・ヴィオラ (ヴァイオリン) ・コントラバス (チェロ)
弦楽器	ヴィオラ・ダ・ガンバ 自由曲(1曲) 【注意】 ヴァイオリン、チェロ、ギター、コントラバスのいずれかで予備診断を受けることもできる。その場合はAO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。
	リュート 自由曲(1曲) (練習曲を含む) 【注意】 ギターで予備診断を受けることもできる。その場合は、AO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に明記すること。
管楽器	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム 自由曲(1曲) (練習曲でもよい)。伴奏なし。 【注意】 ①フルートで受験する者は、「自由曲(1曲)」に加え、選抜入試 器楽コース・フルート課題(1)「音階」を演奏すること。 「音階(参考譜例等)」については、本要項53ページ(選抜入試 器楽コース・フルート課題(1))を参照すること。 ②下記2種の楽器を志願する者に限り、それぞれ括弧内に示す楽器で受験することもできる。 その場合は、AO入試エントリーシートの「予備診断で使用する楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。 ・トロンボーン (バストロンボーン、もしくはユーフォニアム) ・テューバ (ユーフォニアム)
	リコーダー (1) J.van Eyck 『Der Fluyten Lust-hof』より、任意の1曲 ※楽器は、ソプラノリコーダーを使用すること。ピッチは自由とする。 (2) G.F.Händel 『Sonate F-dur für Blockflöte und B.C.』Op.1, No.11, HWV369 ※全楽章、通奏低音付き 【注意】 ①(2)は、必ず415Hzのトレブルリコーダーを使用すること(440Hzは不可)。 ②(1)、(2)は、予備診断当日省略を指示することもある。 ③(2)の伴奏者(チェンバロ)は、本学で用意する。 ④伴奏譜1部を製本し、エントリーシートとあわせて提出すること。 ※伴奏譜の作り方は12ページ参照。
打楽器	自由曲(1曲) (練習曲でもよい)。伴奏なし。 【注意】 小太鼓またはマリンバ、どちらで受験するかをAO入試エントリーシートの「専門楽器」欄に明記すること。なお小太鼓で受験する場合、使用する楽器は受験生自身で用意すること。

声楽コース

自由曲(1曲) (コンコーネ等の練習曲は含まない)

【注意】 ①歌詞は原語に限る。伴奏譜1部を製本し、エントリーシートとあわせて提出すること。
②伴奏譜の作り方は12ページ参照。

■副科ピアノ(器楽・声楽コース)

任意の《ソナタ》または《ソナチネ》の第1楽章か終楽章、あるいは同程度の楽曲

【注意】 ピアノ、ギターの志願者には副科ピアノは課されません。

グローバル教養コース

(1) 小論文(文化創造マネジメント専門においては小論文の選択者のみ)

エントリーシート到着後、本学から課題を郵送しますので、あらかじめ小論文を原稿用紙に書き、予備診断当日に持参してください。

(2) 副科器楽(音楽学専門・音楽教育専門)

①ピアノで受験する場合

任意の《ソナタ》または《ソナチネ》の第1楽章か終楽章、あるいは同程度の楽曲

②ピアノ以外の楽器で受験する場合

自由曲(1曲) (練習曲を含む)

※文化創造マネジメント専門では、副科器楽を課しません。小論文、英語、個性表現のいずれかを選択してください。

【注意】 ピアノ以外の楽器で受験する場合は、本学に設置されている器楽コースに含まれる専門楽器に限ります(18ページ参照)。

(3) 聴音(音楽教育専門のみ)

■個性表現について ※文化創造マネジメント専門の同科目選択者は下記を参照してください。

個性表現とは、自分自身が最も得意とする表現(身体表現、楽器演奏、過去の顕彰、活動実績など)のプレゼンテーションを言います。所要時間5分以内で実施してください。

《具体例》

楽器演奏、ダンスの披露等のパフォーマンス、映像作品の紹介、ボランティア活動の報告、特技に関わる証明書(各種検定資格等)を携えての自己PR、等。

《本学で用意できる楽器》

大型楽器

※大型楽器の貸出について

ピアノ、オルガン、チェンバロについては、本学備付のものを使用してください。

コントラバス、ハープ、テューバ、マリンバ、ヴィオラ・ダ・ガンバについては、本学備付のものを貸出すことが可能です。

《本学で用意できる機器類》

オーディオ機器、パソコン、プロジェクター、書画カメラ、スクリーン

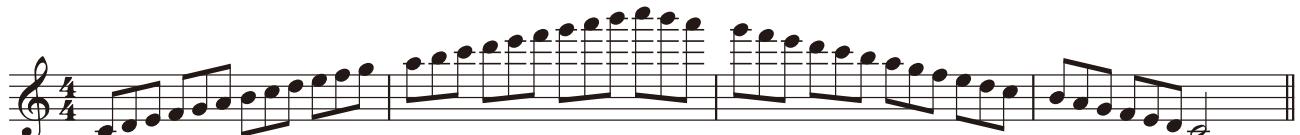
※上記機器類の使用を希望される方、また、自身で手配される方はその旨、事前にご連絡ください。

(連絡先:上野学園大学入試センター03-3842-1024)

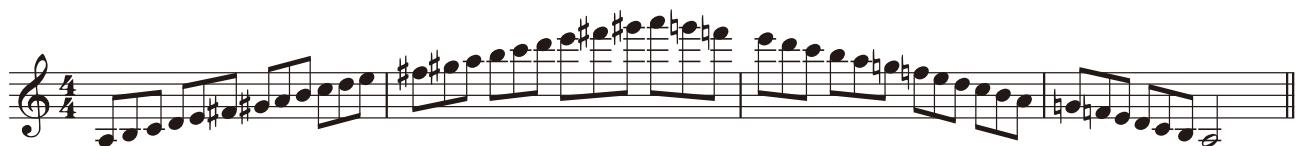
AO入試 弦楽器 音階参考譜例

ヴァイオリン 参考譜例

① C-dur

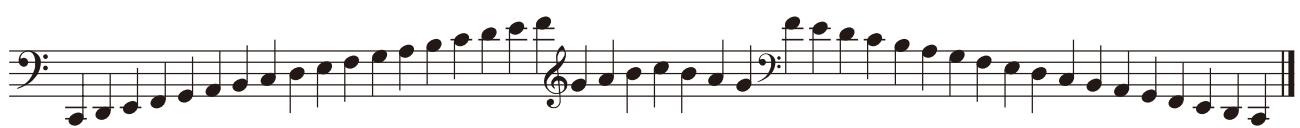


② a-moll



チェロ 参考譜例

③ C-dur



④ a-moll



試験科目・実技課題 指定校推薦入試

専門別課題

<p>[A] 器楽コース</p> <p>(a) ピアノ W.A.Mozart もしくは L.van Beethoven の任意の《ソナタ》の第1楽章または終楽章 あるいは、F.Schubert, F.Liszt, F.Chopin, R.Schumann, J.Brahms のピアノ作品より任意の1曲または1つの楽章 【注意】いずれも暗譜で演奏すること。</p> <p>(b) オルガン (1) オルガンで受験する場合 J.S.Bach のオルガン作品より任意の1曲。ただし、コラール作品 (BWV599-771) は除く。 (2) ピアノで受験する場合 J.S.Bach《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より下記のうち任意の1曲。 BWV847, BWV851, BWV854, BWV856, BWV861, BWV866 【注意】① 楽譜を見てもよい(譜めくりは志願者自身で行う)。 ② オルガンまたはピアノ、どちらの楽器で受験するか実技曲目記入票「受験楽器」欄に明記すること。 ③ 入学後、練習用ハイブ・オルガンを各自確保すること。</p> <p>(c) チェンバロ J.S.Bach《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より下記のうち任意の1曲。 BWV847, BWV851, BWV854, BWV856, BWV861, BWV866 【注意】① 楽譜を見てもよい(譜めくりは志願者自身で行う)。 ② 上記課題をピアノで受験することもできる。 ③ 入学後、練習用チェンバロを各自確保すること。</p> <p>(d) 弦楽器(ヴァイオリン/ヴィオラ/チェロ/コントラバス/ギター/ハープ) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。 ② 下記の楽器を志願する者に限り、それぞれ括弧内に示す楽器で受験することもできる。 その場合は、実技曲目記入票「受験楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。 ・ヴィオラ(ヴァイオリン) ・コントラバス(チェロ)</p> <p>(e) 弦楽器(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① 楽譜を見てもよい。伴奏なし。 ② 上記課題をヴァイオリン、チェロ、コントラバス、ギターで受験することもできる。 ③ 入学後、実技曲目記入票「受験楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。</p> <p>(f) 弦楽器(リュート) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① 楽譜を見てもよい。伴奏なし。 ② 上記課題をギターで受験することもできる。その場合、実技曲目記入票「受験楽器」欄に明記すること。</p> <p>(g) 管楽器(フルート/オーボエ/クラリネット/ファゴット/サクソフォン/ホルン/トランペット/トロンボーン/テューバ/ユーフォニアム) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① 楽譜を見てもよい。伴奏なし。 ② 下記の楽器を志願する者に限り、それぞれ括弧内に示す楽器で受験することもできる。 その場合は、実技曲目記入票「受験楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。 ・トロンボーン(バストロンボーン、もしくはユーフォニアム) ・テューバ(ユーフォニアム)</p> <p>(h) 管楽器(リコーダー) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① 楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p> <p>(i) 打楽器(小太鼓/マリンバ) 自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】① 楽譜を見てもよい。伴奏なし。 ② 実技曲目記入票「受験楽器」欄に演奏する楽器名を明記すること。 ③ 小太鼓で受験する場合、使用する楽器は志願者自身で用意すること。</p>	<p>[B] 声楽コース</p> <p>自由曲(1曲)(コンコーネ等の練習曲は含まない) 【注意】① 暗譜で演奏すること。歌詞は原語に限る。 ② 伴奏譜1部を製本し、入学願書とあわせて提出すること。 ③ 伴奏者は本学で用意する。 ※伴奏譜の作り方は12ページ参照。</p> <p>[C] グローバル教養コース</p> <p>(1) 小論文(60分) (2) コース面接: 口頭にて適性を問う</p>
<p>副科ピアノ (副科器楽)</p>	<p>任意の《ソナチネ》または《ソナタ》の第1楽章あるいは終楽章、または同程度の楽曲 【注意】 ① 楽譜を見てもよい。譜めくりは、志願者自身で行う。 ② グローバル教養コース志願者がピアノ以外の楽器で受験する場合、課題曲は自由曲(1曲)(練習曲を含む)とする。 ③ ピアノを専門的に学んだことのない者は、入学時までに上野学園音楽教室等のレッスンを受けていただくことがあります。</p>

一般公募推薦入試

■各専門共通試験科目

①副科ピアノ：任意の《ソナチネ》または《ソナタ》の第1楽章あるいは終楽章、または同程度の楽曲（ピアノ専門以外）【注意】繰り返しは省略。楽譜を見てもよい（譜めくりは志願者自身で行うこと）。

②音楽理論：楽典（50分）

③ソルフェージュ：下記aとbを受験すること。

a) 初見視唱

b) 聴音

ピアノ・オルガン・チェンバロ専門：8小節程度の単旋律聴音・2声聴音・和声聴音の合計3題

鍵盤楽器以外の各専門：8小節程度の旋律聴音1題

（66～67ページの例題参照）

④面接

■専門実技試験課題 注意事項

（1）管楽器・打楽器の試験課題は、指定されているもの以外は楽譜を見てもよい。伴奏なし。

なお楽譜を見る場合には、志願者自身が準備し、譜めくりが必要な場合には、志願者自身で行うこと。

（2）実技試験時に実技曲目記入票に挙げた曲の中から、指定した曲のみを演奏させることや、曲の一部をカットすることがある。

（3）適性を判断するために、口頭により2～3の諮問を行うことがある。

（4）実技曲目記入票に記入した試験曲の楽譜を1部ずつ準備すること。楽譜は原本またはコピーのどちらでもよい。

※実技試験当日、持参すること。出願書類等と一緒に提出してはならない。

※声楽専門の志願者は、本学で手配する伴奏者用の伴奏譜とは別に準備すること。伴奏者用の楽譜は、出願書類に添えて提出すること。伴奏譜の作り方は12ページ参照。

ピアノ	<p>（1）J.S.Bach 《平均律クラヴィーア曲集》第1巻または第2巻より任意の〈プレリュードとフーガ〉1曲 （2）F.Chopin 《練習曲》Op.10、Op.25 より任意の1曲 （3）J.Haydn、W.A.Mozart、L.van Beethoven、F.Schubert の《ソナタ》より1つまたは複数の楽章 （4）自由曲</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。原則として、繰り返しは省略すること。 （1）（2）（3）（4）の合計時間が、25分～30分になるよう選曲すること。 また（4）自由曲は、1曲でも、あるいは複数の楽曲を組み合わせてもよい。またソナタや組曲の場合は、1つの楽章でも複数の楽章でもよい。</p>
オルガン	<p>J.S.Bach の作品のうち、次の（1）（2）（3）から各1曲ずつ選択し演奏すること。</p> <p>（1）BWV.600、607、608、615、620、624 （2）BWV.604、614、622、639、641 （3）BWV.535、539、550</p> <p>【注意】 使用する楽器、レジストレーションについては入試センターに問い合わせること。 入学後、練習用パイプ・オルガンを各自確保すること。</p>
チェンバロ	<p>次の（1）（2）を演奏すること。</p> <p>（1）J.S.Bach：任意の1曲 （2）Louis Couperin：志願者各自が構成した組曲（L’Oiseau-Lyre 版使用のこと）</p> <p>※入手が難しい場合は大学に問い合わせること。</p> <p>【注意】 入学後、練習用チェンバロを各自確保すること。</p>

ヴァイオリン	<p>(1) 時代様式の異なる協奏曲2曲 (緩徐楽章を除く、任意の楽章ひとつ。カデンツアのあるものは、カデンツアを含む。)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。時代様式は、「バロック～現代」の範囲内で選ぶこと。 協奏曲課題のうち、ひとつはモーツアルトのヴァイオリン協奏曲第3番、第4番、第5番の各第1楽章から選ぶこと。 カデンツアの版指定はない。モーツアルトのみ伴奏(伴奏者は本学教員が担当)あり。演奏箇所は当日指定する。 ※志願者はモーツアルトのヴァイオリン協奏曲の伴奏譜を1部出願書類に添えて提出すること。 ※伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。</p>
ヴィオラ	<p>(1) 時代様式の異なる協奏曲2曲 (緩徐楽章を除く、任意の楽章ひとつ。カデンツアのあるものは、カデンツアを含む。)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。時代様式は、「バロック～現代」の範囲内で選ぶこと。</p>
チェロ	<p>(1) 音階:任意の調の4オクターヴ(スラーは、4音一弓。テンポは自由とする)</p> <p>(2) J.S.Bach 『無伴奏チェロ組曲』より任意の1曲の中からひとつ(例:第1番よりサラバンド)</p> <p>(3) 任意の協奏曲から緩徐楽章を除く、任意の楽章のひとつ(カデンツアがある場合は、カデンツアを含む)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。</p>
コントラバス	<p>(1) 任意の協奏曲から緩徐楽章を除く、任意の楽章のひとつ(カデンツアがある場合は、カデンツアを含む)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。</p>
ギター	<p>3つの異なる時代様式から任意の3曲を演奏すること そのうち1曲は、1900年以降に作曲された作品を含むこと</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ハープ	<p>(1) Bochsa 『Cinquante Etudes』 Op.34 より任意の1曲</p> <p>(2) 自由曲(2曲)</p> <p>【注意】 自由曲2曲は、時代様式が異なる作品を選ぶこと。1曲は、ハープ奏者でない作曲家による作品を選ぶこと。 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ヴィオラ・ダ・ガンバ	<p>次の(1)(2)を演奏すること。</p> <p>(1) J.S.Bach : ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ1曲</p> <p>(2) M.Marais : 任意のプレリュード、アルマンド、クーラントを1曲ずつ(同一の組曲からでなくともよい)</p> <p>【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 志願者は伴奏譜を各2部ずつ出願書類に添えて提出すること。伴奏譜の作り方は12ページ参照。</p>
リュート	<p>下記の作品を含む、30分以内の演奏会プログラムを構成し、演奏すること。 ルネッサンス・リュートを演奏する場合は、次の8曲の中から少なくとも2曲は含めること。 J.Dowland (D.Poulton & B.Lam 編[The Collected Lute Music of Dowland.] Faber Music Limited) より</p> <p>1a. A Fantasie 5. A Fancy 6. A Fancy 7. A Fancy 23a. The Frog Galliard 45. The Right Honourable The Clifton's Spirit 47. Sir John Smith, His Almain 58. The Shoemakaer's Wife. A Toy</p> <p>バロック・リュートを演奏する場合は、S.L.Weiss の作品を含めること。</p> <p>【注意】 ルネッサンス・リュートとバロック・リュートの両方の楽器を演奏してもよい。</p>

一般公募推薦入試

フルート	<p>(1) 以下①②のどちらか1曲を選択し、演奏すること。 ①W.A.Mozart 『Concerto in G major』K.313 より 第1楽章 ②W.A.Mozart 『Concerto in D major』K.314 より 第1楽章</p> <p>【注意】 演奏箇所は、当日指定する。カデンツアは含まない。ピアノ伴奏は、本学教員が担当する。 ※伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。</p> <p>(2) 以下の①～⑥から1曲を選択し、演奏すること。 ①Bozza 『Image』 ②Debussy 『Syrinx』 ③Ferroud 『3 Pièces』よりNo.3 Toan-Yan ④Ibert 『Pièce』 ⑤Honneger 『Danse de la chèvre』 ⑥Kark-Elert 『Sonata "Appassionata"』Op.140</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。</p>
オーボエ	<p>(1) J.N.Hummel 『Introduction, Theme & Variations』Op.102 最初から、Var.2まで演奏すること。</p> <p>(2) Hindemith 『ソナタ』第1楽章</p> <p>(3) 任意の協奏曲 第1楽章あるいは終楽章</p> <p>【注意】 (1) (2) (3) の順で、演奏すること。いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
クラリネット	<p>(1) Alfred Uhl 『48 Etüden für Klarinette』より No.1、No.3、No.6の3曲を演奏すること。</p> <p>(2) Weber 『Concertino』Op.26 全曲</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
ファゴット	<p>(1) K.Stamitz 『協奏曲 へ長調』より第1楽章(カデンツアを含む) (2) 自由曲(2曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜での演奏が望ましい。伴奏なし。</p>
サクソフォン	<p>(1) A.K.Glazunov 『Concerto in E flat major for Alto Saxophone and String Orchestra』練習番号回の手前まで。 (2) 自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
ホルン	<p>(1) 任意の協奏曲の第1楽章 (2) 上記の協奏曲と時代様式の異なる自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。カデンツアはなし。</p>
トランペット	<p>(1) 任意の協奏曲またはソナタの第1楽章 (2) 自由曲(1曲) ※エチュードではあるが、シャルリエ-Théo Charlier 『Trente-six études Transcendantes』に限り、その中から1曲を選んで自由曲としてもよい。</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。カデンツアの有無は問わない。</p>
トロンボーン	<p>(1) C.Kopprasch 『60 Etude for Trombone』(版指定無) No.16、No.17、No.19、No.22、No.23、No.24、No.28、No.30、No.31、No.33 より、任意の2曲 (2) 自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
チューバ	<p>(1) C.Kopprasch 『60 Selected Studies for Tuba』(Robert King 版)より No.17、No.19、No.21 (2) M.Bordoni 『43 Bel Canto Studies for Tuba』(Robert King 版)より No.13</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>

ユーフォニアム	(1) C.Kopprasch 『60 Selected Studies for Trombone』(C.Fischer 版)Book. Iより No.8、No.13、No.14(当日指定) (2) A.Capuzzi 『Andante and Ronde (from Concerto for Double Bass)』(Hinrichsen 版 No.1474) ※「Rondo」は、記号Gの前まで演奏すること。 【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。
リコーダー	次の(1) (2)を演奏すること。 (1) A.Vivaldi : 任意の協奏曲全楽章 (2) G.Ph.Telemann : 任意の協奏曲全楽章 【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 必ず415Hzのリコーダーを使用すること(440Hzは不可)。
打楽器	(1) または(2)を選択し、演奏すること。小太鼓で受験する場合、楽器は、志願者自身で用意すること。 (1) マリンバ 課題曲 Paul Creston 『Concertino for Marimba』 クレストン『マリンバ小協奏曲』より 第1楽章 ※暗譜で演奏すること。伴奏なし。 自由曲 任意の1曲(10分以内) ※暗譜で演奏すること。伴奏なし。 小太鼓 課題曲 Jacques Delécluse 『Douze Etudes pour Caisse-Claire』 ドレクリューズ『小太鼓のための12の練習曲』より第1番 ※楽譜を見てもよい。 (2) マリンバ 課題曲 J.S.Bach 『Drei Sonaten und Drei Partiten für Violino Solo』 バッハ『無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第1番』BWV.1001より〈Presto〉 ※楽譜を見てもよい。 小太鼓 課題曲 Anthony J.Cirone 『Portraits in Rhythm 50 Studies for Snare Drum』 シローン『ポートレイト・イン・リズム』より任意の1曲 ※楽譜を見てもよい。 Jacques Delécluse 『Douze Etudes pour Caisse-Claire』 ドレクリューズ『小太鼓のための12の練習曲』より当日3曲指定 ※楽譜を見てもよい。
声楽	次の(1)、(2)を暗譜で演奏すること。歌詞は原語に限る。 (1) 任意の外国歌曲4曲、日本歌曲3曲を選び、専門実技曲目記入票に記入して提出すること。その中から 外国歌曲2曲、日本歌曲1曲、計3曲が当日指定される。 (2) (1)で選択したもの以外の任意の曲1曲(オペラアリア可)。 【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 志願者は、実技曲目記入票に記入した8曲の伴奏譜を、各2部ずつ出願書類に添えて提出すること。 伴奏譜の作り方は12ページ参照。

器楽コース・声楽コース 試験科目

■各専門共通試験科目

- ①副科ピアノ：任意の《ソナチネ》または《ソナタ》の第1楽章あるいは終楽章、または同程度の楽曲
(ピアノ専門以外) 【注意】①楽譜を見てもよい(譜めくりは志願者自身で行うこと)。
②ピアノ専門およびギター専門の志願者、ヴィオラ・ダ・ガンバ専門またはリュート専門をギターで受験する志願者は免除される。
- ②音楽理論：楽典(50分)
- ③ソルフェージュ：下記①か②のどちらかを選択すること。
①聴音：8小節程度の旋律聴音
②視唱：視唱課題曲6曲(本要項68～73ページ)から、当日試験会場で1曲を指定する。
唱法は、固定ド唱法が好ましいが、移動ド唱法でもよい。
課題楽譜には、練習のためのハーモニーが記入されているが、試験ではピアノによる主和音が与えられた後、無伴奏で歌うこと。

④面接

■専門実技試験課題

- (1)管楽器・打楽器の試験課題は、指定されているもの以外は楽譜を見てもよい。伴奏なし。
なお楽譜を見る場合、志願者自身で楽譜を準備し、譜めくりについても志願者自身で行うこと。
- (2)入試方式(選抜入試(日程A)、選抜入試(日程B))によって試験課題が異なる場合があるので注意すること。

ピアノ	〔選抜入試(日程A)〕 (1) 下記の練習曲より任意の1曲 C.Czerny 《50番練習曲 Die Kunst der Fingerfertigkeit》 Op.740 Cramer=Büllow 《60の練習曲 60 Ausgewählte Etüden》 M.Clementi 《練習曲 Gradus ad Parnassum》(C.Tausig 編) M.Moszkowski 《15の練習曲 15 Etudes de Virtuosité》 F.Chopin 《練習曲》 Op.10, Op.25 (2) J.S.Bach 《平均律クラヴィア曲集 Das Wohltemperierte Klavier》第1巻・第2巻より任意のフーガ1曲 (3) W.A.Mozart あるいは L.van Beethoven の任意の《ソナタ》の第1楽章または終楽章 ただし、L.van Beethoven の《ソナタ》 Op.27 No.1 第1楽章、Op.27 No.2 第1楽章、 Op.49 No.1、Op.49 No.2、Op.79、Op.101、Op.106、Op.109、Op.110、Op.111を除く。 【注意】 (1) (2) (3)とも暗譜で演奏すること。繰り返しは省略すること。
	〔選抜入試(日程B)〕 自由曲(任意の曲、練習曲を含めてよい) 【注意】 1曲あるいは、それ以上の曲数で7分程度以上を演奏すること。暗譜で演奏すること。

オルガン	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>ピアノで受験することもできる。 その場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に楽器名を明記すること。</p> <p>(1) オルガンで受験する場合 J.S.Bachのオルガン作品より任意の1曲。 ただし、コラール作品(BWV599-BWV771)は除く。</p> <p>(2) ピアノで受験する場合 J.S.Bach《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より下記のうち3曲。 BWV847、BWV851、BWV854、BWV856、BWV861、BWV866 ※演奏する曲は、当日試験会場で指定する。</p> <p>【注意】 入学後、練習用パイプ・オルガンを各自確保すること。</p>
チェンバロ	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>ピアノで受験することもできる。 その場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に楽器名を明記すること。</p> <p>J.S.Bach《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より下記のうち3曲。 BWV847、BWV851、BWV854、BWV856、BWV861、BWV866 ※演奏する曲は、試験当日会場で指定する。</p> <p>【注意】 入学後、練習用チェンバロを各自確保すること。</p>
ヴァイオリン	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 以下の教本から任意の調の3オクターヴ音階とアルペッジオ(スラーは自由) 小野アンナ《ヴァイオリン音階教則本》 フリマリー《ヴァイオリン音階教則本》 C.フレッシュ《スケールシステム》</p> <p>(2) 以下の練習曲集から任意の1曲 Kreutzer《42 Etudes》 Rode《24 Caprices》 Dont《24 Etudes and Caprices》Op.35 Paganini《24 Caprices》</p> <p>(3) 以下の任意の協奏曲から緩徐楽章を除く任意の楽章のひとつ(カデンツアがあるものは、カデンツアを含む)、または同程度の協奏曲の緩徐楽章を除く任意の楽章のひとつ(バロック時代の協奏曲でも可) W.A.Mozart《Concerto》G-dur K.216、D-dur K.218、A-dur K.219(いずれもカデンツアの版は自由) F.Mendelssohn《Concerto》e-moll Op.64 M.Bruch《Concerto》g-moll Op.26 E.Lalo《Symphonie Espagnole》d-moll Op.21</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) 任意の無伴奏ヴァイオリンのための作品1曲(練習曲を含む)</p> <p>(2) 任意の協奏曲から緩徐楽章を除く任意の楽章のひとつ(カデンツアがあるものは、カデンツアを含む)、または同程度の協奏曲の緩徐楽章を除く任意の楽章のひとつ</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>

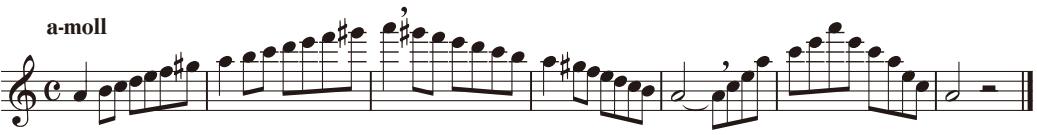
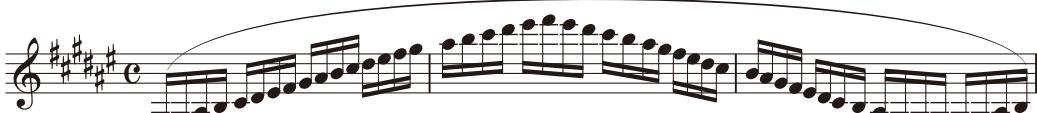
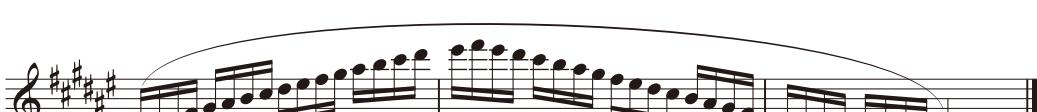
試験科目・実技課題

選抜入試(日程A・日程B)／器楽・声楽・グローバル教養コース

	<p>ヴァイオリンで受験してもよい。その場合、ヴァイオリン課題で受験すること。 なおヴァイオリンで受験する場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に演奏する楽器名を記入すること。</p> <p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) C.フレッシュ《スケールシステム》(ヴィオラ用編曲版)より、任意の調の第5番、第12小節の複縦線まで</p> <p>(2) 以下の曲集から任意の1曲を演奏すること。 Hoffmeister《Etudes》 Campagnoli《41 Caprices》Op.22</p> <p>【注意】 繰り返しは省略すること。</p> <p>(3) 以下のいずれか1曲を選択、または同程度の協奏曲あるいはソナタの1つ、又は2つの楽章 C.Stamitz《Concerto》D-dur Op.1より 第1楽章(カデンツアを含む) J.Christian Bach《Concerto》C-moll より 第2楽章と第3楽章(カデンツアを含む) G.Ph.Telemann《Concerto》G-dur より 第1楽章と第2楽章 A.Hoffmeister《Concerto》D-dur より 第1楽章(カデンツアを含む)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) 任意の練習曲1曲</p> <p>(2) 練習曲以外の任意の1曲</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ヴィオラ	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音 階：下記の教本から任意の調の3オクターヴの音階(スラーは、2音一弓または4音一弓。テンポの指定なし) J.Loeb《Gammes et arpeges》(Billaudo 版)</p> <p>(2) 練習曲：下記の練習曲集から任意の1曲 Dotzauer《113 Studies》 Duport《21の練習曲》</p> <p>(3) 以下のいずれか1曲、または同程度の協奏曲あるいは古典派のソナタの第1楽章 L.Boccherini《Concerto》B-dur より第1楽章(カデンツアを含む) C.Saint-Saëns《Concerto》a-moll Op.33 より第1楽章 E.Lalo《Concerto》d-moll より第1楽章 J.Haydn《Concerto》C-dur より第1楽章(カデンツアを含む) G.Goltermann または B.Romberg の任意の《Concerto》から第1楽章</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) 音階：下記の教本から任意の調の3オクターヴの音階 J.Loeb《Gammes et arpeges》(Billaudo 版)</p> <p>(2) 自由曲(1曲)(練習曲以外)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>

コントラバス	<p>チェロで受験してもよい。その場合、チェロ課題で受験すること。 なおチェロで受験する場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に楽器名を明記すること。</p> <p>〔選抜入試(日程A)〕</p> <p>(1) F-dur と d-moll の音階(1オクターヴ上行と下行)を次の奏法で弾くこと</p> <p>①1音1弓(1音は4分音符とする)で弾く。ただし、M.M. ♩ = ca.60 ②4音1弓(1音は8分音符とする)で弾く。ただし、M.M. ♩ = ca.60</p> <p>(2) 練習曲：下記のエチュードより任意の1曲 F.Simandl 『30 Etudes』</p> <p>(3) 自由曲(1曲)(練習曲を含む)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p> <p>〔選抜入試(日程B)〕</p> <p>(1) F-dur と d-moll の音階(1オクターヴ上行と下行)を次の奏法で弾くこと</p> <p>①1音1弓(1音は4分音符とする)で弾く。ただし、M.M. ♩ = ca.60 ②4音1弓(1音は8分音符とする)で弾く。ただし、M.M. ♩ = ca.60</p> <p>(2) 自由曲(1曲)(練習曲を含む)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ギター	<p>〔選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)〕</p> <p>古典派作曲家から“ソナタ形式”的ものを1曲演奏すること</p> <p>【注意】 暗譜で演奏すること。</p>
ハープ	<p>〔選抜入試(日程A)〕</p> <p>(1) 変ホ長調のスケール、アルペッジョ、和音</p> <p>(2) Bochsa 『Quarante études faciles』 Op.318 より任意の2曲</p> <p>(3) 自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p> <p>〔選抜入試(日程B)〕</p> <p>(1) 変ホ長調のスケール、アルペッジョ、和音</p> <p>(2) 自由曲(1曲)(練習曲以外)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>

<p>ヴィオラ・ダ・ガンバ</p>	<p>〔選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)〕</p> <p>ヴァイオリン、チェロ、ギター、コントラバスで受験することもできる。 その場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に楽器名を明記すること。</p> <p>(1) ヴィオラ・ダ・ガンバで受験する場合 ①D.Ortiz『Tratado de glosa』(Bärenreiter 684) より『Recercada Segunda』(Op.53) ②K.F.Abel『Sechs Sonaten』(Bärenreiter H.M.39、40) より任意の1曲 【注意】②は、伴奏なし。</p> <p>(2) ヴァイオリンで受験する場合 ①任意の練習曲1曲 ②バロック期ヴァイオリン・ソナタの第1楽章および第2楽章 【注意】①②ともに、伴奏なし。</p> <p>(3) チェロで受験する場合 ①任意の練習曲1曲 ②バロック期チェロ・ソナタの第1楽章および第2楽章 【注意】①②ともに、伴奏なし。</p> <p>(4) ギターで受験する場合 ①F.Sor『Etudes』(Op.35) より No.24 e-moll ②P.Attaignant『Basse-danse "Patience"』 【注意】②の楽譜が必要な者は、返信用封筒(定形サイズの封筒に92円切手を貼付けること)同封のうえ、入試センター宛てに請求すること。</p> <p>(5) コントラバスで受験する場合 ①F-dur と d-moll の音階(1オクターヴ上行下行)を1音1弓(1音は4分音符とする)で弾くこと ②自由曲(1曲)(練習曲を含む) 【注意】①音階のテンポは、M.M. $J = ca\ 60$ とする。②は、伴奏なし。</p>
<p>リュート</p>	<p>〔選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)〕</p> <p>ギターで受験することもできる。 その場合、実技曲目記入票の「受験楽器」欄に楽器名を明記すること。</p> <p>(1) リュートで受験する場合 自由曲(2曲) 【注意】ルネサンス期またはバロック期の作品に限る。</p> <p>(2) ギターで受験する場合 自由曲(2曲) 【注意】2曲のうち1曲は、ルネサンス期またはバロック期の作品を演奏すること。</p>

<p>フルート</p>	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音階：1組の長調と関係短調を当日指定する。 長調はレガート、短調はタンギングで、暗譜で演奏すること。</p> <p>[参考譜例]</p> <p>C-dur</p>  <p>a-moll</p>  <p>(2) 下記の練習曲集より 任意の1曲 Andersen 『24 Studies』 Op.21 Fürstenau 『Bouquet des Tons』 Op.125 Koehler 『35 Exercises』 Op.33 I巻およびII巻 【注意】 練習曲集より任意の1曲については、楽譜を見てもよい。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>【日程A】と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。</p>
<p>オーボエ</p>	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) 音階：全調の中より当日指定する。</p> <p>[参考譜例]</p> <p>M.M. ♩ = 60~96</p>  <p>(2) 自由曲(1曲)(練習曲以外) 【注意】 協奏曲の場合は、第1楽章あるいは終楽章を演奏すること。いずれも暗譜の必要はない。伴奏なし。</p>
<p>クラリネット</p>	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) 音階：以下の音階を演奏すること。楽譜を見てもよい。</p> <p>Fis-dur</p>   <p>(2) C.ローズ『32のエチュード』全曲より任意の2曲。ただし、奇数番号と偶数番号の曲を各1曲ずつ、計2曲を演奏すること。 【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。</p>

ファゴット

〔選抜入試(日程A)〕

- (1) 音階：#、♭4つ以内の長調・短調より、当日指定する。
それぞれ、レガート・スタッカートの2パターンで演奏すること。

〔参考譜例〕



- (2) J.Weissenborn 『Studies for Bassoon』 Op.8 第2巻、第1番～第14番までの中から任意の1曲と、第15番を演奏すること。

【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。

〔選抜入試(日程B)〕

- 〔日程A〕と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。伴奏なし。

サクソフォン

〔選抜入試(日程A)〕

- (1) 音階：長短全音階の中より当日指定する。短音階は、和声的音階で演奏すること。
 ①スラーで演奏し、途中でプレスを取らなくてもよいテンポで演奏すること。暗譜で演奏すること。
 ②半音階。暗譜で演奏すること。
 開始音は試験場にて指定する。全音域を16分音符でスラーをかけて演奏すること。
 テンポは、♩=120 以上とする。

〔参考譜例〕

C-dur



a-moll



- (2) 以下(A) (B) のどちらかを選択して演奏すること。

(A) M.Mule 『48 Etudes d'après Ferling』より任意の奇数番号と偶数番号の曲を各1曲ずつ、計2曲を演奏すること。

【注意】 楽譜を見てもよい。

(B) A.Glazounov 『Concerto in E flat major for Alto Saxophone and String Orchestra』練習番号16 の手前まで。

【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。

〔選抜入試(日程B)〕

- 〔日程A〕と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。

【注意】 任意の1曲の場合、楽譜を見てもよい。伴奏なし。

ホルン	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音階：変口長調とハ長調(いずれも実音)の2オクターヴ音階より当日指定する。 次の形式で演奏すること。</p> <p>【参考譜例】</p> <p>(2) ①C.Kopprasch 『ホルンのための60の練習曲』 ②M.Alphonse 『200の新練習曲』第1巻または第2巻</p> <p>【注意】 ①②の中から、それぞれ任意の1曲、計2曲を演奏すること。いずれも楽譜を見てもよい。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>【日程A】と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。伴奏なし。</p>
トランペット	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) Charles Colin 『Lip Flexibilities』 vol.1より、3番 (Etude No.1)</p> <p>(2) 音階：ト長調、イ長調、変口長調、ト短調、イ短調より、当日指定する。 (in B) 次の形式で演奏すること。テンポは、♩ = 80 位で演奏すること。</p> <p>【参考譜例】</p> <p>ト長調 (in B)</p> <p>ト短調 (in B)</p> <p>(3) 課題曲：次の①～④の中から任意の1曲を演奏すること。</p> <p>①A.Corelli 『Sonata VIII』(Transcribed by Bernard Fitzgerald) より〈Prelude〉〈Allemande〉 ※繰り返しなし</p> <p>②G.F.Händel 『Aria con Variazioni』(Transcribed by Bernard Fitzgerald) より〈Theme〉〈Var.I〉〈Var.II〉 ※〈Theme〉の最初の繰り返しのみ、繰り返しあり</p> <p>③J.B.Arban 『12の幻想曲とアリア』第3番〈Fantaisie Brillante〉より〈Theme〉〈Var.I〉</p> <p>④J.B.Arban 『12の幻想曲とアリア』第5番〈The Beautiful Snow〉より〈Theme〉〈Var.I〉〈Var.II〉 ※繰り返しなし</p> <p>【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。</p>

試験科目・実技課題

選抜入試(日程A・日程B)／器楽・声楽・グローバル教養コース

試験科目・実技課題

選抜入試(日程A・日程B)／器楽・声楽・グローバル教養コース

トロンボーン	<p>バストロンボーンで受験することも可能</p> <p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音階：2オクターヴ音階、全調の中から当日指定する。</p> <p>【参考譜例】</p>  <p>(2) Joannes Rochut 編《Melodious Etudes for Trombone》Book I (Carl Fisher 版) 1番～10番より任意の2曲を演奏すること。</p> <p>【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>【日程A】と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。伴奏なし。</p>
チューバ	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音階：2オクターヴ音階、全調の中から当日指定する。</p> <p>(2) C.Kopprasch 《60 Selected Etudes for Tuba》No.10、No.14、No.15、No.17、No.19、No.21 より、当日2曲指定する。</p> <p>【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>【日程A】と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。伴奏なし。</p>
ユーフォニアム	<p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(1) 音階：シャープ、フラットそれぞれ3つまでの長、短音階の中から当日指定する。下記の譜例のように演奏すること。</p>  <p>(2) Joannes Rochut 編《Melodious Etudes for Trombone》Book I (Carl Fisher 版) 1番～15番より任意の2曲を演奏すること。</p> <p>【注意】 いずれも楽譜を見てもよい。</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>【日程A】と同課題とする。ただし、(2)については、任意の1曲でもよい。伴奏なし。</p>

リコーダー	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>(1) J.van Eyck 『Der Fluyten Lust-hof』より、任意の1曲 ※楽器は、ソプラノリコーダーを使用すること、ピッチは自由</p> <p>(2) G.Ph.Telemann 『12 Fantasias for Flute without Bass』より、以下の任意の1曲 ※原調より短3度上げた、以下に指定する調で演奏すること。</p> <p style="margin-left: 20px;">TWV40 :2 ハ長調 TWV40 :4 ニ短調 TWV40 :8 ヘ長調 TWV40 :9 ト短調 TWV40 :10 ト長調 TWV40 :11 イ短調 TWV40 :12 変ロ長調</p> <p>(3) G.F.Händel 『Sonate F-dur für Blockflöte und B.C.』 Op.1, No.11, HWV369 ※全楽章、演奏すること。通奏低音付き。</p> <p>【注意】 (2)、(3)は、必ず415Hzのトレブルリコーダーを使用すること(440Hzは不可)。 (1)、(3)は、試験当日省略を指示することもある。 (3)の伴奏者(チェンバロ)は本学で手配する。試験開始前に20分程度の伴奏者との練習時間を設定する。 伴奏譜(製本したもの)を提出すること。伴奏譜の作り方は12ページ参照。</p>
打楽器	<p>小太鼓またはマリンバ、どちらで受験するかを実技曲目記入票の「受験楽器」欄に明記すること。 小太鼓で受験する場合、使用する楽器は志願者自身で用意すること。</p> <p>【選抜入試(日程A)】</p> <p>(イ) 小太鼓で受験する場合</p> <p>①基礎打ち：1つ打ち、2つ打ち、5つ打ち ②Anthony J.Cirone 『Portraits in Rhythm』より、(5, 13, 15, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 43, 50)から1曲選択し、演奏すること。楽譜を見てもよい。 ③自由曲：②に準ずる任意のエチュードから1曲</p> <p>(ロ) マリンバで受験する場合</p> <p>①音階：3オクターヴの音階、全調の中から当日指定する。任意の音型で演奏すること。 ②Morris Goldenberg 『Morden School for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes』より、V, VII, IX, XIII, XIV, XV, XVIII, XXI, XXVIII, XXXII (5, 7, 9, 13, 14, 15, 18, 21, 28, 32)から1曲選択し、暗譜で演奏すること。 ③10分以内の任意の自由曲</p> <p>【選抜入試(日程B)】</p> <p>[日程A]と同課題とする。</p>
声 楽	<p>【選抜入試(日程A)・選抜入試(日程B)】</p> <p>次の(1)、(2)を暗譜で演奏すること。歌詞は原語に限る。</p> <p>(1) 任意の外国曲(歌曲またはオペラアリア)2曲、日本歌曲2曲を選び、専門実技曲目記入票に記入して提出すること。その中からそれぞれ1曲、計2曲が当日指定される。 (2) (1)で選択したもの以外の任意の曲1曲(コンコーネ等の練習曲は含まない)</p> <p>【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 志願者は、実技曲目記入票に記入した5曲の伴奏譜を、各2部ずつ出願書類に添えて提出すること。 伴奏譜の作り方は12ページ参照。</p>

グローバル教養コース 試験科目

■音楽学専門

〔選抜入試(日程A・日程B)〕

I. (1)か(2)を選択※1※2

(1) 音楽学小論文(60分)と副科ピアノ(副科器楽)※3

(2) 音楽学小論文(60分)と音楽学英語*(60分)……楽器や音楽理論を学習していなくても受験できます。

*音楽学英語：音楽に関係のある英文を出題します。英文は、高等学校第3学年修了程度の水準。

II. コース面接

III. 面接

※ 1 短期大学部との併願を希望する場合は、(1)を選択すること。

※ 2 特待生選考を希望する場合は、(2)を選択すること。

※ 3「音楽学専門」では、受験した楽器が入学後の主たる副科となります。

■音楽教育専門

〔選抜入試(日程A・日程B)〕

I. 音楽理論[楽典](50分)

II. 音楽教育小論文：音楽または音楽教育に関係ある題を出題します。ただし、音楽に関わる専門的な知識を必要としません(60分)

III. 副科ピアノ(副科器楽)※

IV. ソルフェージュ:下記①か②のどちらかを選択すること。

①聴音:8小節程度の旋律聴音。

②視唱:視唱課題曲6曲(本要項68~73ページ)から当日試験会場で1曲を指定する。唱法は固定ド唱法が望ましいが、移動ド唱法でもよい。課題楽譜には、練習のためのハーモニーが記入されているが、試験ではピアノによる主和音が与えられた後、無伴奏で歌うこと。

V. コース面接

VI. 面接

※「音楽教育専門」では、受験した楽器にかかわらず入学後の主たる副科はピアノとなります。

■文化創造マネジメント専門…※楽器や音楽理論を学習していなくても受験できます。

〔選抜入試(日程A・日程B)〕

I. (1)か(2)を選択

(1) 小論文(60分)と英語*(60分)

*英語:高等学校第3学年修了程度の英文を出題します。

(2) 個性表現** (個性表現の所要時間は5分以内、その後質疑応答)と英語(60分)

**個性表現については次頁にて説明します。

II. コース面接

III. 面接

個性表現について※文化創造マネジメント専門の同科目選択者は下記を参照してください。

個性表現とは、自分自身が最も得意とする表現(身体表現、楽器演奏、過去の顕彰、活動実績など)のプレゼンテーションを言います。所要時間5分以内で実施してください。

《具体例》

楽器演奏、ダンスの披露等のパフォーマンス、映像作品の紹介、ボランティア活動の報告、特技に関わる証明書(各種検定資格等)を携えての自己PR、等。

《本学で用意できる機器類》

オーディオ機器、パソコン、プロジェクター、書画カメラ、スクリーン、大型楽器

※上記機器類の使用を希望される方、また、自分で手配される方はその旨、事前にご連絡ください(連絡先：上野学園大学入試センター 03-3842-1024)。

副科器楽について(文化創造マネジメント専門を除く)

※実技曲目記入票の副科ピアノ／副科器楽曲目記入欄に、演奏する楽器と演奏曲目を記入すること。

※特に指示のない限り、楽譜を見てもよい(譜めくりは志願者自身で行うこと)。

《受験できる楽器》

ピアノ、オルガン、チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ギター、ハープ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム、リコーダー、打楽器(小太鼓またはマリンバ)

副科器楽課題(文化創造マネジメント専門を除く)

ピアノ	任意の《ソナチネ》または《ソナタ》の第1楽章あるいは終楽章、または同程度の楽曲 【注意】繰り返しは省略すること。
オルガン	J.S.Bach のオルガン作品より任意の1曲。ただし、コラール作品 (BWV599-771) は除く。
チェンバロ	J.S.Bach 《シンフォニア(3声のインヴェンション) Sinfonien》より任意の1曲
弦楽器	自由曲(1曲)
ヴィオラ・ダ・ガンバ	D.Ortiz 《Tratado de glosa》(Bärenreiter 684) より〈Recercada Segunda〉(Op.53)
リュート	P.Attaignant 《Basse-danse Patience》 (楽譜が必要な志願者は、返信用の角2封筒に140円切手を貼付のうえ、入学願書等に同封し、入試センター宛てに請求すること。)
管楽器	自由曲(1曲)
リコーダー	H.M.Linde 《Neuzeitlicheübungsstücke für die Altböckflöte》(Schott 4797) より第11番、第12番
打楽器	自由曲(1曲)

試験科目・実技課題 選抜入試(日程A・日程B)／演奏家コース

■各専門共通試験科目

①副科 ピアノ：任意の《ソナチネ》または《ソナタ》の第1楽章あるいは終楽章、または同程度の楽曲

(ピアノ専門以外) 【注意】繰り返しは省略。楽譜を見てもよい(譜めくりは志願者自身で行うこと)。

②音楽理論：楽典(50分)

③ソルフェージュ：下記aとbを受験すること。

a) 初見視唱

b) 聴音

ピアノ・オルガン・チェンバロ専門：8小節程度の単旋律聴音・2声聴音・和声聴音の合計3題

鍵盤楽器以外の各専門：8小節程度の旋律聴音1題

(66～67ページの例題参照)

④面接

■専門実技試験課題 注意事項

(1) 管楽器・打楽器の試験課題は、指定されているもの以外は楽譜を見てもよい。伴奏なし。

なお楽譜を見る場合には、志願者自身が準備し、譜めくりが必要な場合には、志願者自身で行うこと。

(2) 実技試験時に実技曲目記入票に挙げた曲の中から、指定した曲のみを演奏させることや、曲の一部をカットすることがある。

(3) 適性を判断するために、口頭により2～3の諮問を行うことがある。

(4) 実技曲目記入票に記入した試験曲の楽譜を1部ずつ準備すること。楽譜は原本またはコピーのどちらでもよい。

※実技試験当日、持参すること。出願書類等と一緒に提出してはならない。

※声楽専門の志願者は、本学で手配する伴奏者用の伴奏譜とは別に準備すること。伴奏者用の楽譜は、出願書類に添えて提出すること。伴奏譜の作り方は12ページ参照。

ピアノ	<p>(1) J.S.Bach 《平均律クラヴィーア曲集》第1巻または第2巻より任意の〈プレリュードとフーガ〉1曲 (2) F.Chopin 《練習曲》Op.10、Op.25 より任意の1曲 (3) J.Haydn、W.A.Mozart、L.van Beethoven、F.Schubert の《ソナタ》より1つまたは複数の楽章 (4) 自由曲</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。原則として、繰り返しは省略すること。 (1) (2) (3) (4) の合計時間が、25分～30分になるよう選曲すること。 また(4)自由曲は、1曲でも、あるいは複数の楽曲を組み合わせてもよい。またソナタや組曲の場合は、1つの楽章でも複数の楽章でもよい。</p>
オルガン	<p>J.S.Bach の作品のうち、次の(1) (2) (3) から各1曲ずつ選択し演奏すること。</p> <p>(1) BWV.600、607、608、615、620、624 (2) BWV.604、614、622、639、641 (3) BWV.535、539、550</p> <p>【注意】 使用する楽器、レジストレーションについては入試センターに問い合わせること。 入学後、練習用パイプ・オルガンを各自確保すること。</p>
チェンバロ	<p>次の(1) (2) を演奏すること。</p> <p>(1) J.S.Bach：任意の1曲 (2) Louis Couperin：志願者各自が構成した組曲(L'Oiseau-Lyre 版使用のこと) ※入手が難しい場合は大学に問い合わせること。</p> <p>【注意】 入学後、練習用チェンバロを各自確保すること。</p>

ヴァイオリン	<p>(1) 時代様式の異なる協奏曲2曲 (緩徐楽章を除く、任意の楽章ひとつ。カデンツアのあるものは、カデンツアを含む。)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。時代様式は、「バロック～現代」の範囲内で選ぶこと。 協奏曲課題のうち、ひとつはモーツアルトのヴァイオリン協奏曲第3番、第4番、第5番の各第1楽章から選ぶこと。 カデンツアの版指定はない。モーツアルトのみ伴奏(伴奏者は本学教員が担当)あり。演奏箇所は当日指定する。 ※志願者はモーツアルトのヴァイオリン協奏曲の伴奏譜を1部出願書類に添えて提出すること。 ※伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。</p>
ヴィオラ	<p>(1) 時代様式の異なる協奏曲2曲 (緩徐楽章を除く、任意の楽章ひとつ。カデンツアのあるものは、カデンツアを含む。)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。時代様式は、「バロック～現代」の範囲内で選ぶこと。</p>
チェロ	<p>(1) 音階:任意の調の4オクターヴ(スラーは、4音一弓。テンポは自由とする)</p> <p>(2) J.S.Bach 『無伴奏チェロ組曲』より任意の1曲の中からひとつ(例:第1番よりサラバンド)</p> <p>(3) 任意の協奏曲から緩徐楽章を除く、任意の楽章のひとつ(カデンツアがある場合は、カデンツアを含む)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。</p>
コントラバス	<p>(1) 任意の協奏曲から緩徐楽章を除く、任意の楽章のひとつ(カデンツアがある場合は、カデンツアを含む)</p> <p>(2) 自由曲(1曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。伴奏なし。</p>
ギター	<p>3つの異なる時代様式から任意の3曲を演奏すること そのうち1曲は、1900年以降に作曲された作品を含むこと</p> <p>【注意】 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ハープ	<p>(1) Bochsa 『Cinquante Etudes』 Op.34 より任意の1曲</p> <p>(2) 自由曲(2曲)</p> <p>【注意】 自由曲2曲は、時代様式が異なる作品を選ぶこと。1曲は、ハープ奏者でない作曲家による作品を選ぶこと。 いずれも暗譜で演奏すること。</p>
ヴィオラ・ダ・ガンバ	<p>次の(1)(2)を演奏すること。</p> <p>(1) J.S.Bach : ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ1曲</p> <p>(2) M.Marais : 任意のプレリュード、アルマンド、クーラントを1曲ずつ(同一の組曲からでなくともよい)</p> <p>【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 志願者は伴奏譜を各2部ずつ出願書類に添えて提出すること。伴奏譜の作り方は12ページ参照。</p>
リュート	<p>下記の作品を含む、30分以内の演奏会プログラムを構成し、演奏すること。 ルネッサンス・リュートを演奏する場合は、次の8曲の中から少なくとも2曲は含めること。 J.Dowland (D.Poulton & B.Lam 編[The Collected Lute Music of Dowland.] Faber Music Limited) より</p> <p>1a. A Fantasie 5. A Fancy 6. A Fancy 7. A Fancy 23a. The Frog Galliard 45. The Right Honourable The Clifton's Spirit 47. Sir John Smith, His Almain 58. The Shoemakaer's Wife. A Toy</p> <p>バロック・リュートを演奏する場合は、S.L.Weiss の作品を含めること。</p> <p>【注意】 ルネッサンス・リュートとバロック・リュートの両方の楽器を演奏してもよい。</p>

試験科目・実技課題 選抜入試(日程A・日程B)／演奏家コース

フルート	<p>(1) 以下①②のどちらか1曲を選択し、演奏すること。</p> <p>①W.A.Mozart 『Concerto in G major』K.313 より 第1楽章 ②W.A.Mozart 『Concerto in D major』K.314 より 第1楽章</p> <p>【注意】 演奏箇所は、当日指定する。カデンツアは含まない。ピアノ伴奏は、本学教員が担当する。 ※伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。</p> <p>(2) 以下の①～⑥から1曲を選択し、演奏すること。</p> <p>①Bozza 『Image』 ②Debussy 『Syrinx』 ③Ferroud 『3 Pièces』よりNo.3 Toan-Yan ④Ibert 『Pièce』 ⑤Honneger 『Danse de la chèvre』 ⑥Kark-Elert 『Sonata "Appassionata"』Op.140</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。</p>
オーボエ	<p>(1) J.N.Hummel 『Introduction, Theme & Variations』Op.102 最初から、Var.2まで演奏すること。</p> <p>(2) Hindemith 『ソナタ』第1楽章</p> <p>(3) 任意の協奏曲 第1楽章あるいは終楽章</p> <p>【注意】 (1) (2) (3) の順で、演奏すること。いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
クラリネット	<p>(1) Alfred Uhl 『48 Etüden für Klarinette』より No.1、No.3、No.6の3曲を演奏すること。</p> <p>(2) Weber 『Concertino』Op.26 全曲</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
ファゴット	<p>(1) K.Stamitz 『協奏曲 へ長調』より第1楽章(カデンツアを含む) (2) 自由曲(2曲) (無伴奏作品、ソナタ、小品他)</p> <p>【注意】 いずれも暗譜での演奏が望ましい。伴奏なし。</p>
サクソフォン	<p>(1) A.K.Glazunov 『Concerto in E flat major for Alto Saxophone and String Orchestra』練習番号回の手前まで。 (2) 自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
ホルン	<p>(1) 任意の協奏曲の第1楽章 (2) 上記の協奏曲と時代様式の異なる自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。カデンツアはなし。</p>
トランペット	<p>(1) 任意の協奏曲またはソナタの第1楽章 (2) 自由曲(1曲) ※エチュードではあるが、シャルリエ-Théo Charlier 『Trente-six études Transcendantes』に限り、その中から1曲を選んで自由曲としてもよい。</p> <p>【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。カデンツアの有無は問わない。</p>
トロンボーン	<p>(1) C.Kopprasch 『60 Etude for Trombone』(版指定無) No.16、No.17、No.19、No.22、No.23、No.24、No.28、No.30、No.31、No.33 より、任意の2曲 (2) 自由曲(1曲)</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>
チューバ	<p>(1) C.Kopprasch 『60 Selected Studies for Tuba』(Robert King 版)より No.17、No.19、No.21 (2) M.Bordoni 『43 Bel Canto Studies for Tuba』(Robert King 版)より No.13</p> <p>【注意】 (1) (2)、いずれも楽譜を見てもよい。伴奏なし。</p>

ユーフォニアム	(1) C.Kopprasch 『60 Selected Studies for Trombone』(C.Fischer 版)Book. Iより No.8、No.13、No.14(当日指定) (2) A.Capuzzi 『Andante and Ronde (from Concerto for Double Bass)』(Hinrichsen 版 No.1474) ※「Rondo」は、記号Gの前まで演奏すること。 【注意】 楽譜を見てもよい。伴奏なし。
リコーダー	次の(1)(2)を演奏すること。 (1) A.Vivaldi : 任意の協奏曲全楽章 (2) G.Ph.Telemann : 任意の協奏曲全楽章 【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 必ず415Hzのリコーダーを使用すること(440Hzは不可)。
打楽器	(1) または(2)を選択し、演奏すること。小太鼓で受験する場合、楽器は、志願者自身で用意すること。 (1) マリンバ 課題曲 Paul Creston 『Concertino for Marimba』 クレストン『マリンバ小協奏曲』より 第1楽章 ※暗譜で演奏すること。伴奏なし。 自由曲 任意の1曲(10分以内) ※暗譜で演奏すること。伴奏なし。 小太鼓 課題曲 Jacques Delécluse 『Douze Etudes pour Caisse-Claire』 ドレクリューズ『小太鼓のための12の練習曲』より第1番 ※楽譜を見てもよい。 (2) マリンバ 課題曲 J.S.Bach 『Drei Sonaten und Drei Partiten für Violino Solo』 バッハ『無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第1番』BWV.1001より〈Presto〉 ※楽譜を見てもよい。 小太鼓 課題曲 Anthony J.Cirone 『Portraits in Rhythm 50 Studies for Snare Drum』 シローン『ポートレイト・イン・リズム』より任意の1曲 ※楽譜を見てもよい。 Jacques Delécluse 『Douze Etudes pour Caisse-Claire』 ドレクリューズ『小太鼓のための12の練習曲』より当日3曲指定 ※楽譜を見てもよい。
声楽	次の(1)、(2)を暗譜で演奏すること。歌詞は原語に限る。 (1) 任意の外国歌曲4曲、日本歌曲3曲を選び、専門実技曲目記入票に記入して提出すること。その中から 外国歌曲2曲、日本歌曲1曲、計3曲が当日指定される。 (2) (1)で選択したもの以外の任意の曲1曲(オペラアリア可)。 【注意】 伴奏者は本学で手配する。伴奏者との練習は、試験当日の指定した時間に行う。 志願者は、実技曲目記入票に記入した8曲の伴奏譜を、各2部ずつ出願書類に添えて提出すること。 伴奏譜の作り方は12ページ参照。